

第7回地域の魅力まるごとブランド化検討委員会

- 日 時 平成22年9月6日（月曜日）午後6時00分～午後8時00分
場 所 大会議室A
議 題 1 平成22年度の経過報告について
・夏休み親子体験ふれあいツアー
・修学旅行誘致九州地区エージェント訪問
2 美唄を知ってもらうための仕組みづくりについて
3 その他

出席者（委員）

吉岡宏高、横山浩二、佐藤直幸、前川和子、脇田陽一、森田敏、
谷村明紀、渡部貴司

※欠席～津田潤、田島優子、川島浩、山田優子、

（事務局）

中井英雄、奥山隆司、置田孝浩、佐藤政直、土屋貴久

議 事

1 平成22年度の経過報告について

夏休み親子体験ふれあいツアー

平成22年8月4日に開催した標記ツアーについて、アンケート結果からは高い評価を得ているが、新聞・ホームページ・メルマガの他札幌市の各施設でのチラシ配布等を行うも、告知・集客面で苦勞した旨、事務局・置田から説明。また、前回会議で意見のあったコンシェルジュ的人材の配置については、今回の結果と踏まえ、言葉で案内できるようなシステム作りを観光部会で検討していく旨、事務局・奥山から補足説明。

●リピーターの状況はどうだったのか。（佐藤委員）

→リピーターは3組（内2組は林業試験場の体験ツアー）で、リピーターの紹介で来た人もいた。（事務局・置田）

●費用をみると、一人当たりの募集コストが4万円にもなるため、普通のやり方では難しいのではないかと。きっかけ作りをシステムチックにする必要がある。また、土産を持たせて3,500円なら、誰でも結果に満足するだろう。（吉岡委員）

●林業試験場では、CBツアーズ主催でツアーを募集していたが、募集が集まらず毎年頓挫していた。しかし、ツアー募集に先立って、札幌エルプラザでガーデニング講習会を開催

し、そこでPRしたら募集が殺到した。ガーデニング講習会だった為、花が好きな人が沢山集まることから、それが良い結果につながったと思う。(脇田委員)
→何かと連動できないか工夫してみるといい。普通の言葉では集客できないということがわかった。(吉岡委員)

修学旅行誘致九州地区エージェント訪問

標記誘致に向けて事務局・奥山が平成22年8月29日～31日まで標記エージェント訪問をしてきたことについて説明。6市29支店のうち20社で具体的な話をしてきたところ、北海道のスキーは修学旅行で大人気であるが、一方、JALが経営難により減便し、飛行機も小型化されているため、来年以降は北海道への修学旅行(スキーツアー)は非常に厳しい状態である旨。また、道外のエージェントが最初にリサーチするのがインターネット(ホームページ)であるため、ネットを使ったPR方法の改善の必要性も感じた旨、事務局・奥山から説明。

2 美唄を知ってもらうための仕組みづくりについて

「食クラスター連携協議体」及び「美唄高校と市内企業の共同事業」の活動について

標記について、「道産小果実高付加価値化モデル」として、ハスカップ・アロニア・シーベリーに係るキャラクター・北の果実3姉妹を作成し、PRを実施していくこととった旨、生産量日本一のハスカップの販路拡大のツールが増える可能性を事務局・中井から説明。また、生産量日本一である美唄のハスカップを活用した農商工の連携について、美唄高校の生徒達によって作られたハスカップピネガーが、アンテナショップPiPaで直ぐに品切れ状態になることを受け、高校と市内の創味フーズとのコラボでドレッシングやタレの製造・販売の可能性について説明。

●お金をかけてキャラクターを作っても、効果があるのか不安である。(吉岡委員)

中村のとりめしのレトルトパック販売について

標記について、美唄の郷土料理である「中村のとりめし」が、レトルト販売される見込みとなった旨。米は中村産にこだわって「ななつぼし」を使用し、値段は検討中だが4合分のパッケージなので1,000円台後半になる見込みである旨、事務局・土屋から説明。

ブランド認証シールの作成について

本検討会議では、当初、認証制度によるシールの作成の検討もしていたものの、美唄を知ってもらう観点からは、シールだと直ぐに捨てられてしまう為、例えば紙質やデザインが

立派な紙袋をつくってみてはどうか。これなら何回も使えるし、この紙袋を使うこと自体が美唄のPRにもつながる。版を市で作成し、それを市内各店舗で買ってもらうことで、市内の色々な店で美唄ブランドがデザインされた統一の紙袋が流通する旨、事務局・津田から説明。

●紙袋については各店舗から消費者が買ってもらう形式を考えているが、紙袋を買うというのではなく、美唄への寄付という形にしたい。(事務局・奥山)

・宮島沼の保全に向けた寄付、アルテピアッツァ美唄への寄付といったものと紙袋とを掛け合わせて、セット商品として売ればどうか。(脇田委員)

・コスト的な問題、使い方、使うシーン、デザイン、単価について気をつけていく必要がある。(吉岡委員)

・紙袋を買うことによる特典や、美唄の地図をデザインに掲載するなどしてはどうか。(横山委員)

●「戦略」と「方針」を明確に組み立てる必要がある。親子ふれあいツアーの集客でも明らかだが、美唄は通常のやり方では集客できない。そこから考えられるのは「質を意識する」ということではないか。美唄と言う名が知られていない為、清水町のようなブランド認証にはならない。美唄を知ってもらえば、美唄を訪れてくれるのだが、そのとっかかりが「アルテピアッツァ美唄」、「宮島沼」「ハスカップ」というものではないのか。アルテに来た人が民泊へギアチェンジする例も実際にあり、既に美唄に来た人をどうして行くのか。また、それを知らせていくコンシェルジュ的人材の育成もどうして行くのか。何をすべきなのかという大方針を検討会で皆が確認し、詰める作業をする必要があるのではないか。次回は「方針」と「具体的なもの」をたたき台として事務局で用意してほしい。そして、それに対する「作戦」と「やるべきことの整理」を行いたい。(吉岡委員)

3 その他

9月4日に「世界一長い焼き鳥挑戦」を開催し、24.83mで世界記録を更新した旨、事務局・佐藤から説明。また、空知団地にてロケット打ち上げの事業について事務局・奥山及から説明。

決 定

・次回は10月14日(木)午後6時に開催予定。

以 上